

鎖しました。利用者にとっては、自分には全く身に覚えのない話で、自分たちに全く責任が無い中で、突然その日からの仕事を失うことになりました。利用者は途方に暮れ、混乱します。それでも、自分で、今後についての行動がとれる人は、労働基準監督署へ相談に行かれましたが、そのように行動できる人たちばかりではありません。

西部就ポツとしては、ハローワークやハローワークで就労系障がい福祉サービス事業等体験会を実施しているチームウエストの事業所、西部就ポツの担当圏域の自立支援協議会等と協力しながら、次の仕事を探すための支援、雇用保険の失業給付の申請手続きの支援、そして、未払い賃金については、国の未払い賃金の立て替え払い制度についての情報収集などに当たりました。その結果、多くの方が次の就労先を見つけることができ、時間が掛りましたが、年度末には、未払い賃金についても、立て替え払い制度により給付を受けられるようになりました。私たちの前には、自分たちのことを、必要に応じて適切に発信できる人ばかりではありません。自分で声を上げることができない人、自分の権利を自身で主張することができない人達に対して、福祉専門職と言われる仕事に従事する者として、私たちは何ができるのか、何をすべきなのかをよく考えて、今後の業務と向き合っ参りたいと思います。また、この事について、西部就ポツのスタッフだけでなく、法人の全職員とも共有し、法人の職員の支援の質が高まるように、努力して行きたいと思ひます。

いつか誰かの話か歌の歌詞かで、『幸せは探すものではなく、気づくものである』というフレーズをお聞きしたことがあります。現在のような危機的な状況になると、普段の何気ない状態がいつもあることが、実はとても大切な幸せな状態であるような気がしています。障がいのある方やそのご家族の、さりげない毎日を続けるための、様々な福祉サービスの提供を我々職員がしていると考えると、この仕事がいかに大切な役割をはたして、とてもやりがいのある、素敵な仕事であることをあらためて実感させられます。

今回のコロナウイルスの感染拡大の中、何か光のようなものが見えたとしたら、この事への気付きがその一つなのかもしれません。日々感染が拡大する状況が収束に向かうまで、まだ少し時間が掛ると思ひますが、こんな時だからこそ、みんなで手をつないで、力を併せて、何とか乗り越えていきたいと思ひます。止まない雨はありません。いつかきっと光が差し込みま

す。

年度初めにあたり、今年の抱負を一文字で表すとすると、私にとっては令和2年度は『気』がピッタリではないかと思ひます。「気づくこと」がとても大切な私たちの仕事を、どこかの議員の方のスローガンではありませんが『ヤル気・元気・勇気』を持って前進して行きたいと思ひます。一年間よろしくお願ひいたします。

居宅介護事業所 管理者 服部 剛志



この4月より「指定居宅介護事業所」の管理者を拝命しました服部剛志と申します。従来、福島育成園やグループホーム等で勤務してきましたが、居宅介護事業所での勤務は初めてとなります。不慣れな部分もあるかとは思ひますが、よろしくお願ひいたします。

当事業所では「居宅介護」「移動支援」「重度訪問介護」「行動援護」の各事業を行っています。

4月現在、登録ヘルパーが89名おり、利用者様の生活や余暇を充実させるために日々支援をしています。ただ、ヘルパーは人数の減少や高齢化が課題となっており、ヘルパーの確保が課題となっています。事業所では随時ヘルパーの募集を行っています。関心・興味のある方はぜひ、事業所までお問い合わせください。

また、当事業所では余暇支援(移動支援)のニーズが多くありますが、最近の新型コロナウイルスの影響で、施設の閉鎖などが相次ぎ、活動内容が制限されつつある状況です。利用者さんの余暇の機会やヘルパーの活動機会が減少するとともに、事業所としても収入が減少するといった事態となりつつあります。1日でも早く新型コロナウイルスの影響が収まることを願ってやみません。

最後に、管理者紹介にあたり自分の漢字1字を選ぶとのことなので、自分の名前の1字でもあり、普段から馴染みのある「志」にしました。育成会に入職して20年が過ぎましたが、入職した当時、利用者さんの人生が豊かになるための仕事をしていくのだという「志」を改めて意識しながら、仕事を進めていきたいと思ひます。